

本日の学び テーマ：「あなたの罪は赦される」 テキスト：マルコ2章1-12節

【理解の手がかりとして】

今課のテキストはイエス様が中風の病を患っている人を癒す出来事である。そこには、その中風を患う人をイエス様のもとに連れていくために、床を担ぎ、その床を天井から吊り降ろした人々の働きが記されている。「中風」とは、脳（血管）にまつわる病で、その結果身体に麻痺などの障害をもたらすものと考えられる。そういったことから、この人が「運んで来」（2:3）られた（自力で歩くこともままならなかった）という事情がよく分かる。

イエス様はカファルナウムという町のある「家」（2:1）の中に居られた。イエス様は公衆の面前から身を引こうとして「家」に留まっておられたのだと思われる。ところがそこに「大勢の人が集まったので、戸口の辺りまですきまもないほどになった」（2:2）。するとそこに「四人の男」（2:3）が中風の人を運んで来た。思うに、彼らの関係は強い信頼関係で結ばれた友人同士ではなかったかと想像する（病で動けない自分の体を委ねるだけの信頼関係のある友人たち）。この人の病（状態）からの救いを切に願い、行動を起こした人たちであった。彼らは何とかしてこの人をイエス様のもとに連れていきたい、そう熱く願い、その一心で床を担いでやってきたのだろう。しかし、ぎっしりとつめかけた群衆のため、床に乗せたままの病人を中まで連れていくことが出来なかった。すると彼の友人たちは屋根を剥がして穴を開け、床もろともイエス様の前につり降ろしたのであった。

イエス様は、その人たちの信仰を見て、中風の人に、「子よ、あなたの罪は赦される」（2:5）と言われた。さらに「『あなたの罪は赦される』と言うのと、『起きて、床を担いで歩け』と言うのと、どちらが易しいか」（2:9）と。

この問に対して、もしかしたら私たちは「起きて歩け」の方が圧倒的に難しい、と思うかも知れない。しかしイエス様は、「あなたの罪は赦された」と言う方が圧倒的に難しい、とお考えなのである。それは、続いて「人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを知らせよう」（2:10）と仰ったことから明らかである。

このことから私たちは、教会に託されている宣教の言葉、イエス様の十字架の福音（「御子の十字架の贖いによってあなたの罪は赦された」と告げること）が、この世のあらゆる事柄を凌駕するほどの驚くべきこと（イエス・キリスト以外に誰も成し得ないこと）、凄いことだということにあらためて気づかされる。

そして、「病のいやし」とは、単なる治癒という事柄に留まらず、「罪の赦し」という当時のユダヤ社会における社会性の回復と密接につながっていること、閉ざされていた交わりが回復される全人格的な出来事なのだと言われるのである。そしてそのことをも為すのが「イエスの権威」であり、それはまさに「律法」を超えた神の契約（救い）という次元で、この出来事を受け止めさせられる。まさにイエス様は律法以上のお方、律法の完成者、成就者、まことの権威なのである。

さて、ここで男たちがとった行動、すなわち屋根を剥いで床をつり降ろすということは、常識を覆す方法である。そこでは「なんとしてもイエス様に救ってほしい」と願う気持ち

が彼等をそうさせた。イエス様はそこに彼らの「信仰」を見られたのである(2:5)。ある人がこう書いていた。「信仰とは、イエスに直面せんとする〈行為〉である」「信念は、自分の通いなれた道しか歩まない。だが信仰は、道なき所に道を求める行為そのものである」(高田英治著『イエスに出会った人々』より)。——イエス様に出会おうとした彼ら、この病の床にある友を是が非でもイエス様に救ってもらいたいと願った担ぎ手たちと、その心にすべてを委ねて床に身を横たえる病人、その彼らの信仰は、自分たちを押しのける群衆の背中に絶望せず、屋根に門を求めるという行為へと押し出したのである。

私たちがこの箇所を読む時に、まず自分自身がそこで担ぎ上げられて、群衆の背中に象徴されるような様々な壁を、周りの人々の祈りと助けによって乗り越えさせられ、イエス様の前にまっすぐに立つことが出来ている存在であることを思い出すことが大切ではないか。この中風の人のように、生かされ担がれてきた私たちである。そして今度は自分が、誰かの床を担いで、イエス様のもとに連れていく者へと押し出されていくのである。

(聖書教育より)

「『あなたの病は癒される』と言わなかったのは、当時『病気は罪の結果であり、神は罰をもってその人に報いられる』と言われていたからです。心身の故障に苦しむ病人が、その上罪人というレッテルを貼られて一層苦しまなければならなかったのです。」(聖書の学び～病気に苦しむ人)

(各人の新年の抱負)